

総合的な学習の時間 第4学年

つながる ひろがる 人と人 ～障害理解への一歩～

学習指導者 まいたに なおき
米谷 直樹

子供たちは、前期に行った特別支援学校の友達との交流を振り返る活動を通して、障害のある人への関心を高め、「障害についてもっと詳しく知って、交流をしたい」という思いから、様々な障害について調べていきました。

本時は、自分が調べた障害の困り感や解決策を同じ障害グループの友達と紹介し合い、整理していきました。行動場面では、観点ごとに分かれたつながりシートを使って社交性を発揮しながら、自分が調べていなかった困り感についても知り、理解を深めていきました。その後、他の障害について調べた友達とも交流した子供たちは、障害ごとに困り感には特徴があることや、他の観点でも自分の障害の困り感を見付ける必要があることに気付くなど、障害への理解を深めようとしている姿が見られました。



考察

○困り感が書かれた付箋紙を、食事や交通などの観点ごとに分けたシートに貼り付けながら仲間分けをしたことで、社交性を発揮して様々な友達の考えに触れ、自分が気付かなかったことにも気付くことができました。

●整理したシートを見ながら気付いたことを話し合う際に、各教科の見方・考え方を働かせるような視点を提示するなど、思考の手がかりが必要でした。